

第14回 千葉県地域連携の会 開催要項

with コロナ時代～望ましい地域医療連携とは～

- 1 目的 医療、介護、福祉、行政等の関係者の皆様と、地域の抱える課題や必要な対策を議論し、より望ましい医療提供体制の構築を目指します。
- 2 開催日 令和3年3月4日（木） 午後1時から午後6時50分
- 3 開催方法 WEB 開催
- 4 主催 千葉大学医学部附属病院
- 5 参加 医療・介護・福祉・行政等関係者、当院教職員
- 6 参加費 無料
- 7 申込み 以下のホームページか、ちらしの裏面をFAXいただき、お申込みください。
(申込期限：令和3年2月16日（火）)

ホームページアドレス <https://www.ho.chiba-u.ac.jp/hosp/event/index.html>
(右記QRコードにより、スマートフォン等からの申込みも可能です。)



※参加者への配布資料（抄録集）に施設紹介を掲載しますので、ご希望される場合は上記ホームページにより、お申込みください。

8 プログラム

13:00～13:20 オープニング

開会	主催者挨拶（千葉大学医学部附属病院 病院長 横手 幸太郎）
中央診療棟の紹介	新しく1月にオープンした中央診療棟をご紹介します。

13:30～15:00 第1部 全体会

パネルディスカッション テーマ： 千葉県における新型コロナウイルス対応の振り返り	[パネリスト] 山本 修一 氏（千葉大学 副学長）【座長】 久保 秀一 氏（千葉県 健康福祉部 健康危機対策監） 神山 潤 氏（東京ベイ・浦安市市川医療センター 管理者） 岡本 和久 氏（医療法人社団城東桐和会 理事長） 谷口 俊文 氏（千葉大学医学部附属病院 感染制御部 講師） 新型コロナウイルス感染症の本格的な流行から約1年経過することを踏まえ、これまでの千葉県における新型コロナウイルスへの対応やそれに対する課題等を振り返り、地域の医療介護等関係者と情報共有、意見交換を行うことで、今後のwith コロナ時代における望ましい地域医療のあり方を考えます。
--	--

15:20～16:20 第2部 分科会1 ※分科会A、分科会Bを同時開催

分科会A 千葉から全国に広がる移行期医療支援センターの取り組み *発表者* 千葉県 健康福祉部 疾病対策課 保健師 藤田 豪 氏	医療の進歩に伴い小児期発症の難病を抱えたまま成人年齢に達する患者が増加しています。年齢に見合った最善の医療を患者に提供するためには、適切に成人期診療科へ転科、転院、併診を行っていく必要があります。小児期発症の病気を抱えたまま成人年齢に達した方が年齢に見合った包括的な医療を受けられるようにすることを「移行期医療」といいます。 本分科会では、全国に先んじて2019年10月に設置された千葉県移行期医療支援センターの取り組みについて紹介します。当センタ
---	---

<p>千葉大学病院 小児科 助教 日野 もえ子</p>	<p>一ではこれまで千葉県内小児期診療科における移行期医療の実態調査、移行期にある患者へのアンケート調査を行いました。2020年12月に行った千葉県内神経筋疾患における内科・小児科同時調査の結果を報告し、難病患者の移行における問題を考えます。</p>
<p>分科会B 千葉大学病院家族支援チーム「FAST(Family Support Team)」 *発表者* 千葉大学医学部 法医学教室・小児科 助教 齋藤 直樹 千葉大学病院 小児科 助教 遠藤 真美子 千葉大学病院 地域医療連携部 福原 諒子</p>	<p>全国の児童虐待相談対応件数は令和元年度に過去最多の19万件となりました。医療現場では深刻な虐待事例に遭遇することが多いとされています。虐待対応は医療現場のみで完結しません。児や児を取り巻く家族の評価と支援が必須であり、行政・福祉・教育・司法・医療などが連携を取って初めてなされます。一方、医療者は医療と虐待対応を併行して行うことにより肉体的にも精神的にも疲弊します。その解決策として、医療機関には虐待対応知識を集約し、要支援家族に対応できるチームを設置することが求められています。</p> <p>本分科会では、当院の家族支援チーム(FAST)の紹介をするとともに、多機関連携における諸問題や千葉大独自の活動を皆様と共有したいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概要 2. 統計、架空事例紹介 3. 周産期(特定妊婦・NICU～スクリーニングに関して) 4. 法医学との連携、小児の死因究明について

<p>16:35~17:35 第3部 分科会2 ※分科会C、分科会Dを同時開催</p>	
<p>分科会C ウイルス肝炎を取り巻く社会的状況 *発表者* 千葉大学病院 消化器内科 助教 中村 昌人 千葉大学病院 消化器内科 /肝疾患相談センター 看護師 阿部 麻由美</p>	<p>ウイルス肝炎に対する治療薬の進歩により、C型肝炎は治癒可能に、B型肝炎は予防・制御可能な疾患となっています。また、ウイルス肝炎に関する検査や治療、入院に対する各種助成制度が拡充されており、患者さんの経済的負担は軽減されてきています。このように、ウイルス肝炎の撲滅に向けて追い風の状況となっていますが、必ずしも全ての患者さんがその恩恵を享受しているとは言えない現状があります。</p> <p>本分科会では、ウイルス肝炎治療の現状や助成制度を紹介いたします。なるべく多くの方がウイルス肝炎検査を受検し、治療や助成を受けるためには、医療・福祉に従事する方々からの情報提供や啓発が必要です。本分科会がその一助となれば幸いです。</p>
<p>分科会D 回復期リハビリテーション病院におけるCOVID-19クラスターの経験 *発表者* 千葉大学病院 浦安リハビリテーション教育センター(タムス浦安病院) 特任教授 山中 義崇</p>	<p>タムス浦安病院は、回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟を有しますが、いわゆる急性期病棟は有していません。2020年7月12日に判明したクラスターは患者、職員合わせて40名と規模の大きいものであり、当初は終息までに2ヶ月はかかると見込まれていました。当院における診療体制では急性期管理は困難であり、千葉県医療調整本部のご尽力も有り、県内急性期病院への搬送を速やかに行い、最終的には26日間で、クラスターの終息に成功しました。</p> <p>本分科会では、当院クラスターの経験を通じて得た知見、クラスターを発生させない予防対策、ならびに回復期がコロナウイルス診療に貢献できる内容を発表いたします。</p>

<p>分科会E</p> <p>CHIBA TAIYO Project-小児科・精神科・児童精神科の地域医療連携推進計画-</p> <p>*発表者*</p> <p>千葉大学病院 こどものこころ診療部 講師 佐々木 剛</p>	<p>当院こどものこころ診療部は、小児科・精神科・児童精神科医が地域医療・教育・研究ネットワークを構築し、千葉県の児童精神科受療アクセス改善を行う地域医療連携推進計画を打ち出し、「令和2年度千葉県子ども心の診療ネットワーク事業」の業務委託を受け、本事業を「CHIBA TAIYO Project (Treatment Access Intervention for the YOung)」と名付けました。</p> <p>本分科会では、千葉県の児童精神医学領域の臨床・教育・研究推進を目的とする「CHIBA TAIYO Project」の様々な計画や実践（児童精神科受療アクセス改善効果の検証、新たな児童精神医学教育体制の構築など）をご紹介します。</p>
<p>分科会F</p> <p>「ヘルスケアパスポート」を活用した地域医療連携の取り組み</p> <p>*発表者*</p> <p>TIS 株式会社 サービス事業統括本部 ヘルスケアビジネスユニット ヘルスケアサービス企画営業部 フェロー 山田 大 氏 上級主任 藤城 孝之 氏</p>	<p>「ヘルスケアパスポート」は、地域医療情報連携システムに参加する医療機関同士や生活者との間での双方向による医療・健康情報の共有や、それに伴う生活者からの情報提供の同意や利用停止の申請などが電子的に処理できるクラウドサービスです。導入、運用コストの大幅削減や小規模な医療圏でのスモールスタート、オープンプラットフォームによるサービス拡張性が特徴であり、情報セキュリティに強みを持つTIS株式会社とSHACHIで先進的な地域医療連携を展開した千葉大学病院との協業で開発され、2020年9月28日から運用を開始しました。</p> <p>本分科会では「ヘルスケアパスポート」を活用した地域医療連携への取り組みや、地域包括ケアシステム実現に向けた千葉大学病院と各医療施設（中核病院、クリニック、検査機関、調剤薬局等）の連携における今後の展開、可能性についてお話いたします。</p>